

ドイツ普門寺・中川正壽老師より
お便りを頂戴しました。

善光寺尊董

黒田博志理事長

拝復 残暑厳しい折ご健勝を祈念致します。

過日は貴寺育英会の資料一式をご送付いただきありがとうございます。毎度拙寺の図書館に張り出しておりますが、いまだ応募者のないのは残念なことであります。やはり日本語習得が大きな壁になっているようです。

とはいえ貴育英会卒業生の面々は壯観たる数と人材であります。継続のご精進に感服いたします。

当センターはそれなりに定着してまいります。

たが、禅道場としては出家の人材が現れず、これも時勢であるかとわが身の年齢を省みたりしますが、やはりなんといつても自らの力量不足に思い当たるこのごろであります。昨今の拙詠を添付いたします。

二〇一九年八月三十日

ドイツ普門寺 中川正壽 九拝

合掌

二〇一九年令和元年夏の日に

さすたけの君よやすらに

み佛の慈悲に洩れたる人のなければ

佛とは君を育むいのちにて

君を抱き取り休む暇なし

南無と受け 身をあづけければ

いまの世に 君あり吾あり佛あり

いだかれてあづけわたしして生くる身に

尊きものはいまの一息

この息も止まれば易しこの身をば

佛のみ手にゆだね返さん

生涯の君の精進報われん

佛は嘉（よみ）す君の越し方

涙もて乗り越え来る幾千の

うつしこの世の愁悲憂苦悩

うつし身に受くるこの世の苦しきは

われを導き此処に至れり

泣き叫ぶ君はわれなり

苦しまん君はわれなり かの日かの時

地獄なるこの世にありて ひと日ごと

君を癒さん 佛の祈り

まづ君を度（わた）さんとてか歩まれし

佛の願ひ いまは全し

ひさかたのけふの夏日に祈ること

君に幸あれ なごみやすらへ